

平成30年(2018年)版

Yomo Yomo

きもち

～10代のあなたに～

リアルに

ホラー&ダークファンタジー

えほん^{とおの}遠野物語 『まよいが』

柳田国男^{やなぎたくに}／原作 京極夏彦^{きょうごくなつひこ}／文 近藤薫美子^{くみこ}／絵 汐文社 2016年発行

岩手県遠野^{あた}の辺りでは不思議なことがよく起こる。行けども行けどもたどりつけない美しい花の咲く山が見えたり、迷い込んだものに幸運をもたらすという「迷い家^{まよ}」が現れたり。民俗学者柳田国男が、遠野の人々の間で伝承されていた話を集めた説話集、『遠野物語』が絵本になりました。他にも『かっぱ』『やまびと』『ざしきわらし』があります。

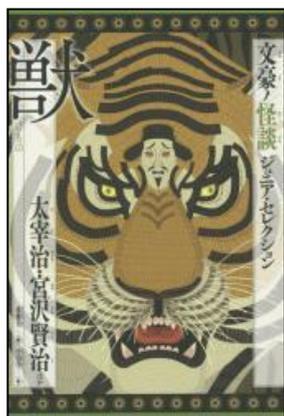


文豪ノ怪談 ジュニア・セレクション 『獣』

太宰治^{ださいおさむ}・宮沢賢治^{みやざわけんじ}ほか／著 東雅夫^{ひがしまさお}／編 汐文社 2016年発行

お化けや死霊が出てくる話ばかりが怪談ではありません。名だたる文豪たちがくり広げる「怪談」は一味違います。生きている人の持つ欲、ねたみ、ひがみ、うらみ…。巧みな言葉^{たくもち}を用いて人間の心の闇をあぶり出します。

シリーズは全5巻^{たんのう}。堪能してください。



『狐霊の檻』

廣嶋玲子^{ひろしまれいこ}／作 小峰書店 2017年発行

守り神である狐霊^{しりしよく}を私利私欲のために結界^{けっかい}の中に封じ込めた阿蒙家^{あごうけ}。その世話役として買われてきた娘・千代は、自由を求める狐霊「あぐりこ」に同情し、解き放ってあげたいと思う。何としてでも捕らえておこうとする阿蒙の家の者に、千代は「あぐりこ」の知恵を借りて恐ろしい戦いを挑む。



『怪物はささやく』

パトリック・ネス／著 シヴォーン・ダウド／原案 池田真紀子／訳 あすなる書房 2011年発行

13歳の少年コナーは、難病の母親と二人暮らし。ある夜、イチイの木の姿をした怪物が突然コナーの前に現れた。怪物は、自身が3つの物語を語り終えたら、次はコナーが最後の物語「真実」を語るようにと告げる。

母との別れの予感と、うまくいかない級友との関係。幻想と現実の間で揺れながら、最後にコナーが語る物語とは？



『墓守りのレオ』

石川宏千花／著 小学館 2016年発行

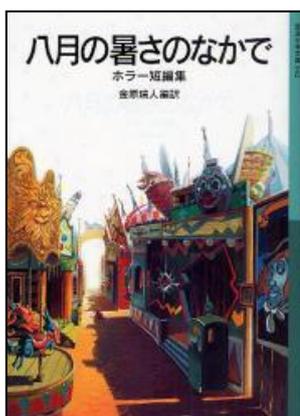
漆黒の闇夜に似た色の髪と瞳をもつ孤児・レオは、小さな街の《慈愛と慰めの丘》という墓地で、相棒のバーソロミューと一緒に墓守りをしている。レオの周りには「家族」とも呼べる人たちがたくさんいて、寂しさを感じることはない。ある日、エミリアという少女が訪ねてきた。彼女には思い出したいことがあるようだ。

『堆塵館 アイアマンガー三部作1』

エドワード・ケアリー／著 古屋美登里／訳 東京創元社 2016年発行

廃棄物の山にそびえる異形の建築物「堆塵館」。この館で憂うつながらも平和な毎日を過ごしていたクロッドは、ある時、館の異変に気づく。

荒れ狂う廃棄物の海と襲いくるゴミの波。一方、館の深部では得体の知れないモノがうごめき始める。そこにはクロッドの一族にまつわる怖ろしい秘密が隠されていた。



『八月の暑さのなかで ホラー短編集』

金原瑞人／編訳 岩波書店 2010年発行

イギリスとアメリカの怖い小説をたくさん読んでいた編者が選び抜いた13編。エドガー・アラン・ポーなど、短編を得意とするホラー作家の作品は、怖いだけでなく、読後に尾を引く話、奇妙で不思議な話、せつない話などバラエティに富んでいます。ゾクッと切れのいい作品を味わってください。

『お化け屋敷のつくり方』

平野ユーレイ、齊藤ゾンビ／著 アールズ出版 2011年発行

暗闇の中で「何かがいるかもしれない」と想像し、怖さを味わうお化け屋敷。怖さの追求にこだわる平野ユーレイと齊藤ゾンビがプロデュースするお化け屋敷『だいば台場怪奇学校』は、さまざまな手法で恐怖を体験させてくれる。どうやってつくられているのか？ その秘密に迫ってみよう。



『ゴーストハント 1 旧校舍怪談』

小野^{ふゆみ}不由美／著 メディアファクトリー 2010年発行

取り壊そうとすると事故が起こる。そんな噂がある旧校舎に心霊現象の調査に来た「渋谷サイキックリサーチ」。彼らの高額なカメラを壊してしまった麻衣は、調査の手伝いをするに。恐ろしく顔の整った17歳の所長を「ナルシストのナルちゃん」と心の中で呼びつつ、怪奇現象に立ち向かう。シリーズ全7巻。



『ふちなしのかがみ』

辻村^{つしむらみづき}深月／著 株式会社 KADOKAWA 2012年発行

ふと本から顔を上げたその瞬間、目に映る「現実」が変様したような感覚に、あなたもきっと襲われるはず。その感覚から抜け出した先にあなたを待っているのは果たして、元いたところだと言えるのか。

学校の七不思議にまつわる「踊り場の花子」をはじめとした、5つの物語へと足を踏み入れる体験を、あなたもぜひ。



『夏と花火と私の死体』

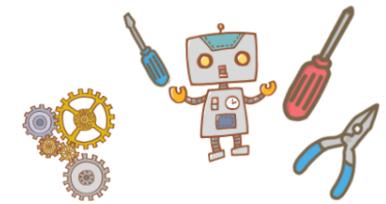
乙^{おつ} 一^{いち}／著 集英社 2000年発行

9歳の夏、「わたし」は友だちの弥生^{やよい}ちゃんに殺された。弥生ちゃんのおに^{けん}いちゃんである健くん^{けん}のことを好きと言ったからだ。弥生ちゃんと健くんは、死体になった「わたし」を見つからないように次々と隠し場所を変えてゆく。花火大会の夜、お宮の石垣に空いた穴に落とそうと「わたし」を運んだ二人を待っていたのは…。





つくっちゃう本



かば焼のタレ味のガムって
おいしいの？

『ひらめき！食べもの加工 おもしろ実験アイデアブック』

やすし
岡本靖史／著
農山漁村文化協会 2015年発行



時間が止まったような躍動の
スポーツシーンを切り取って

『ふせんで作る 1/40の世界 スポーツモチーフの型紙 428点』

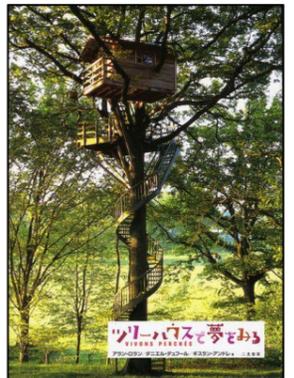
キリグラフ
Killigraph／著
青春出版社 2012年発行



木の上で過ごしてみませんか？

『ツリーハウスで夢をみる』

アラン・ロラン、ダニエル・デュフル、
ギスラン・アンドレ／著
日本ツリーハウス研究会、山瀬千晶／訳
二見書房 2007年発行



雪降る美しい世界、
自分のイメージで手作りできるよ

『スノードームの世界 ～ウィンターコレクション～』

ものづくりクラブ／著
ほるぷ出版 2016年発行



オリジナル自販機を作って遊ぼう

『改訂版 ダンボールで作る おもしろ自動販売機』

もなみ
大野萌菜美／監修
ブティック社 2016年発行



プレゼントに 自分用に
どんな色で作ろうか

『かわいい組ひもの教科書 はじめてでもかんたんにつくれる 50通りの組み方と アクセサリーの作り方』

ただまきこ
多田牧子／監修
誠文堂新光社 2014年発行



香るハーブを暮らしに取り入れて
リラックス

『ハーブをたのしむ絵本』

おおのやよい
大野八生／作
あすなる書房 2016年発行



小さくてかわいい
しかも 本当に食べられます

『手のひらサイズのリアルごはん マイクロフード 140』

よしだゆたか／著
日経BP社 2016年発行



フィギュア制作の
超絶テクニックを大公開

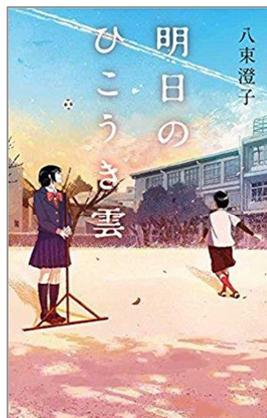
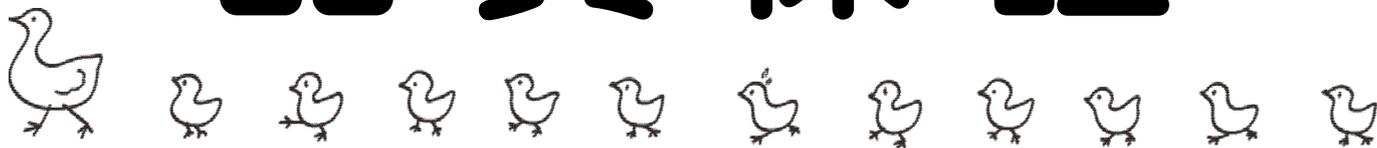
『大山竜 作品集&造形テクニック』

大山 竜／著
玄光社 2016年発行





品質保証



『明日のひこうき雲』

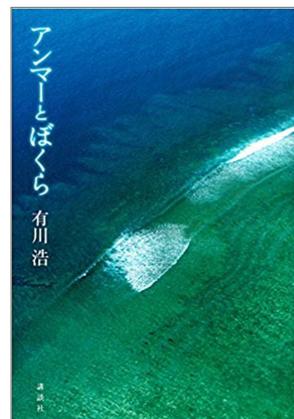
あす
八束澄子／著 ポプラ社 2017年発行

単身赴任の父、うつ病の母、小学1年生の弟。14歳の遊ゆうは家族の問題を抱えて憂うつな毎日を過ごしていた。そんなある日、サッカー部のキンちゃんに恋をした。彼を追いかけるため、友達とサッカー部のマネージャーに。それから遊の世界が変わりはじめる。恋、友情、家族。中学生の揺れる心を描いた青春ラブストーリー。

『アンマーとぼくら』

ありかわ ひろ
有川 浩／著 講談社 2016年発行

数年ぶりに母が一人で暮らす沖縄へ向かった。二人で父との思い出の場所をめぐる。どの場所でも、そのときの父が鮮やかによみがえる。大人のくせにどうしようもなく子どもだった父。「このやろう」と思ったことも数知れずある。だけど、この里帰りが気づかせてくれたんだ。ぼくらが父の愛で包まれていたことに。



『車夫』

しやふ
いとうみく／作 小峰書店 2015年発行

オレは、浅草で人力車をひく車夫として働いている。高校の陸上部の先輩が紹介してくれた仕事だ。走るのが好きなこと、顔がいいことがこの仕事の条件だそうだ。高校中退で、親が行方不明というオレで大丈夫か？ はじめはそう思ったけれど、この仕事を通して、まだやれるって思えるようになってきたんだ。

『誰がために鐘を鳴らす』

山本幸久／著 株式会社KADOKAWA 2016年発行

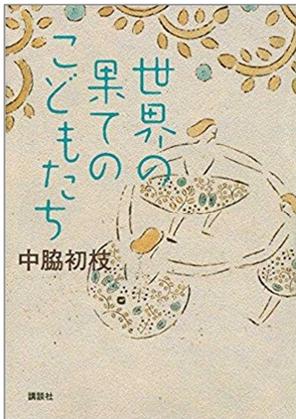
来年3月には廃校する諏那高。3年生の錫之助たち4人は自分の担当の音だけを鳴らせばよいとハンドベル部を復活させた。だが、全員そろわないと練習にならないと気づき、時間を合わせてコツコツ練習した。そのかいあって、保育園の七夕演奏会では大喝采をあびた。4人は人生に悩みながらも、ベルの音色とともに成長していく。



『世界の果てのこどもたち』

中脇初枝／著 講談社 2015年発行

戦時下の満州で出会った珠子と美子と茉莉は、生まれも育ちも違っていたけれど、ある出来事がきっかけで仲良しになった。しかし、終戦が突然彼女たちを離ればなれにする。幸せだった毎日が、ずっと続くものと思っていたのに。大切な人たちを失い、時代の流れに翻弄され、過酷な人生を歩むことになった少女たちの行く先にあるものは。



『レイン 雨を抱きしめて』

アン・M・マーティン／作 西本かおる／訳 小峰書店 2016年発行

自閉症という障がいのある小学生のローズ。融通が利かず、学校でなじめない彼女の唯一の友達が、犬のレインだった。ところがある日のハリケーンで、レインが行方不明になってしまう。レインを探すローズを待ち受けていたのは、予想もつかない展開だった。



『いい人ランキング』

吉野万理子／著 あすなろ書房 2016年発行

9月の始業式の朝、中2の木佐貫桃と妹の鞠は、母の再婚によって変わった新しい苗字を練習しながら、学校に向かう。文化祭のミスコンを職員会議で却下された桃のクラスは、「いい人ランキング」というイベントを行う。だが、桃が1位になったことから、クラスの空気が少しずつ変わり、桃は追い詰められていく。





『魔法の箱 トモダチがくれた宝物』

ポール・グリフィン／作 池内 ^{めぐみ} 恵／訳 WAVE 出版 2016 年発行

学校ではいじめられるし、養護施設にいたぼくを選んで家族にしてくれたお母さんまで突然死んでしまうなんて。大切なものはみんな消えてしまう。人生、辛いことばかりだ。でも、虹色の服を着たタフな重病人の女の子と、ふるえていたチビ犬が教えてくれたんだ。ぼくが持っている究極の宝物、そして、未来を信じる心を。

『ジョージと秘密のメリッサ』

アレックス・ジーン／作 島村浩子／訳 偕成社 2016 年発行

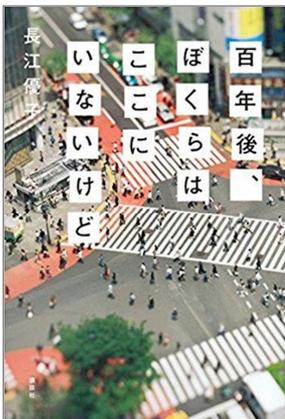
ジョージは男の子の体で生まれたけれど、心は女の子。でも、それは誰にも言えない秘密だ。こっそり女の子向けの雑誌を見て、違う自分になることを夢見ている。そんなある日、学校で劇をやることになった。主役は女の子がやることになっている。でも、この役はどうしてもやりたい！ ジョージはオーディションを受けることを決意する。



『百年後、ぼくらはここにいないけど』

長江優子／著 講談社 2016 年発行

地理歴史部、通称チレキに所属している健吾は中3の夏休み明け、巨大なジオラマの土台を前に途方に暮れていた。急きよ新部長となり、熱血顧問には様々な注文を付けられ、部員たちとの関係もギクシャク。健吾たちの住む渋谷の百年前と今を重ね合わせ、チレキ部員たちの静かで熱いジオラマ作りが始まる。



箕面市立図書館ホームページアドレス

<http://www.city.minoh.lg.jp/library/index.html>

編集・発行: 箕面市立図書館 箕面市立小・中学校図書館

問い合わせ先: 箕面市立中央図書館

TEL: 072-722-4580 / FAX: 072-724-9697

発行日: 平成30年(2018年)1月

